

本庄水源地

本庄水源地は、二河川の水を貯めて調整するコンクリート製の重力式の堰堤である。1918年、海軍拡張に伴う水需要の増大に対応するため、帝国海軍によって建設された。堰堤が完成するまで、呉市民は有害な細菌や物質にさらされやすい低品質の井戸水に頼っていた。堰堤の完成後、海軍はこの新しい水の一部を呉市民に提供し、より信頼性の高い水源を提供した。

堰堤の構造は長さ97メートル、幅3.64メートル、高さ25メートルで、最大196万立方メートルの水量を貯めることができる。建設当時は東洋最大の堰堤と言われていた。堰堤の外観や大階段（九十六段）は、いずれも花崗岩を切り出して作られている。本庄水源地は建設当初から使用され続けてきたため、ほとんど補修工事は行われていなかった。この耐久性の高さは、堰堤建設当時の海軍建築技術の高度さを物語っている。

堰堤の麓には水門小屋があり、流量を測定して放流量を制御してから宮原浄水場に下流に送るようになっている。水門小屋の隣には丸い井戸があり、貯水池の水位が低い時には二河川から直接水を引くことができる。2017年には新たにプロペラによる水循環システムを導入し、貯水池内の藻類の繁殖を抑制することで、さらなる水質改善を図っている。また、堰堤の貯水池を守るために、堰堤近くの人工島には水の神様を祀った小さな祠が建っている。

本庄水源地は、平成 11 年に、稼働している水道施設としては日本で初めて国の重要文化財に指定された。2005 年には、その景観や歴史的意義、洗練された建築などが評価され、一般財団法人水源池環境センターにより「ダム湖百選」に認定された。毎年春になると、堰堤の麓の桜の開花に合わせて一般公開されている。